



KEYPAT

能登半島地震における全学メンタルサポートチーム KEYPAT
(Kanazawa Educational Yell Psychological Assistance Team)
の立ち上げ

KEYPATコアメンバー

保健管理センター 吉川弘明、足立由美、馬場絢子

KEYPAT



KEYPAT (Kanazawa Educational Yell Psychological Assistance Team) とは？

- 2024年1月1日に発生した能登半島地震によって、心の不調を抱えることになった金沢大学構成員を心理面から支援する全学的チーム



KEYPATの構成メンバー

- コアメンバー
 - 金沢大学保健管理センターの公認心理師である専任教員（足立、馬場）と学校医・産業医（吉川）の3名
- 協力メンバー
 - 金沢大学の専任教員の中から公認心理師資格を持つもので、KEYPATの趣旨に同意し活動できる者（人間社会学域、医薬保健学域）
 - 保健管理センターの保健師1名（安全衛生担当保健師）
 - 保健管理センターの非常勤公認心理師の中からKEYPATの趣旨に同意し活動できる者
 - 専任学校医・産業医（2名）
- 運営サポートメンバー
 - 学務部学生支援課

スーパーバイザー

- 附属病院神経科精神科
菊知 充 教授
- 保健管理センター長
竹村博文 教授

KEYPAT



KEYPATの支援対象

- 金沢大学の学生と家族
 - 学域生、大学院生、留学生、その他
- 附属学校園児童・生徒と保護者
- 教職員
 - 大学、附属学校園、附属病院、附属施設



チームA



チームB



チームC



KEYPAT

チームA

大学生、大学院生、その他
(留学生含む)、家族

チームB

附属学校園児童・生徒、
保護者

チームC

教職員(大学、附属学校園、
附属病院、附属施設)

KEYPAT相談窓口(メール)
KEYPATコアメンバー

担当: 保健管理センター学生相談
公認心理師

- 保健管理センターの公認心理師が対応(専任・非常勤)
- 家族自身のケアについては原則1回対応(外部紹介)

英語でのカウンセリング
月10:00-15:00、金13:00-16:00

担当: 学校教育学類
学類長、総括長

- スクールカウンセラーと連携
- 協力公認心理師(学校教育学類)が対応
- 養護教諭と連携
- 保護者自身のケアについては原則1回対応(外部紹介)

担当: 人間社会学域長

- 保健管理センター保健師と連携
- 協力公認心理師(主に人間社会学域)が対応(原則1回対応、外部紹介)

運営サポート
(学生支援課)

報告書をKEYPATコアメンバーが集約し、
アセスメントの上、さらに必要な支援
を検討する

医療的コンサルテーションが必要な場合は各事業所産業医と連携(角間地区、鶴間地区、平和町地区、兼六園下地区:宝町地区(附属病院))

1月9日対応開始





KEYPATの活動状況

- 1月1日：能登半島地震発生。
- 1月5日：学長により関係者の招集。KEYPAT発足。同日のうちにコアメンバーにより、KEYPAT体制案を構築。チームAの運営体制を確認。KEYPATメンバーリングリストを構築。KEYPAT申し込みメールアドレスを作成。保健管理センターのwebサイトに災害時の心の健康に関するメッセージを掲載。
- 1月6日：附属学校園統括長によりチームBの体制を策定。人間社会学域長により、チームCに加わる同学域所属の公認心理師に協力依頼。
- 1月9日：最初の相談申し込みあり。対応開始。
- 1月22日：チームBメンバー全体のwebミーティング開催。
- 1月24日：チームCメンバー全体のwebミーティング開催。
- 1月26日：コアメンバーとチームCの公認心理師1名が、附属小学校を訪問。カウンセリングを実施するとともに、校長、副校長、養護教員、スクールカウンセラーとミーティングを行った。

KEYPAT



KEYPATへの申込件数と対応件数

	チームA	チームB	チームC	計
1/9~1/19	7	16	2	25
1/22~1/26	3	6	3	12
計	10	22	5	37

個人への対応のほか、各事業所を訪問して、
集団へのコンサルテーションも実施

*チームBは児童・生徒と保護者が対象であるため、申込方法が異なる

KEYPAT

(2024.1.26現在)



金沢大学構成員をKEYPATが支援する理由

- 大学の学生・教職員には、能登半島に縁故がある者が多く、直接的・間接的に被災している。早急な多角的な支援の一つとして、心理面のサポートを公認心理師のカウンセリングで行うことは、有効であると考えた。
- 震災復興には被災後の時期により、様々な支援が必要となるが、石川県を挙げた地元の支援は欠かせない。
- 震災復興に関われるものが、心の健康を保って活動できる状態を維持しなければ、これから長期間にわたる支援は望めない。



保健管理センターから学生・教職員の皆さんへ

*English follows Japanese.

このたび能登地方を震源とする大規模な地震が発生し、不安を感じておられる方も多いと思います。

このような災害、事件、事故を経験したときのストレスを緩和するために、情報提供をさせていただきます。

◆ 災害、事件、事故等のストレスの緩和のために

災害、事件、事故等に遭うと、私達は通常、「何も感じないし、考えられない」「亡くなった人のことばかりが思い出される」「考えがまとまらないし、体に力が入らない」といった感情の変化を起こします。変化は、年齢・亡くなった方がだれか（父、母、祖父母、恋人、友人、配偶者、子ども等）、自分の性格、周囲に助けしてくれる方がいるかどうかなどによっても異なりますが、これらは、深い悲しみを体験した後に生じる、当たり前の反応です。決して無理をしないで、ご自身の心を受け止めてください。

◆ 災害、事件、事故を経験したときに起こりうる反応

- からだの変化（熟睡できない、食欲低下、集中力の低下、疲れやすい等）
- こころの変化（涙が出てきて止まらない、現実だと思えない、悲しいという気持ちが起きない、いろいろな不安を強く感じる、強く自分を責めてしまう等）
- 行動の変化（今まで普通にできていたことができない、人と会うのを避ける、周りの人に怒ったりする等）

◆ 資料

[ストレス災害時こころの情報支援センター 一般の方へ](#)

2024.1.5

保健管理センター

To students, faculty, and staff

We believe many people are anxious about the recent large-scale earthquake in the Noto Peninsula.

We will provide information to alleviate stress when experiencing such disasters, incidents, and accidents.

◆ To alleviate stress caused by disasters, incidents, accidents, etc.

1月5日に保健管理センター
webサイトに掲載した災害時
のこころの変化に関する注意
喚起



令和6年能登半島地震に関するメッセージ

編集

災害等における、こころのケアを目的とした支援チーム「KEYPAT*」を立ち上げました。

*English follows Japanese.

1月5日、本学では保健管理センターを中心に、公認心理師、臨床心理士等から成るこころのケアを目的とした専門チーム「KEYPAT」を立ち上げました。

こころの専門家が本学の学生・留学生、児童・生徒、教職員、保護者・家族等に対するこころの支援を行います。

KEYPATに相談を希望する方は、以下にメールをお送りください。公認心理師が返信いたします。

KEYPAT相談窓口

keypat-info@ml.kanazawa-u.ac.jp

*「KEYPAT」はKanazawa Educational Yell Psychological Assistance Teamの略

We have launched a support team “KEYPAT*” to provide mental health care in disasters.

On January 5th, our university launched KEYPAT, a specialized mental care team of certified psychologists, clinical psychologists, etc., centered Health Service Center.

Mental health experts support our students, international students, faculty, staff, parents, and families.

If you want to consult with KEYPAT, please email the address below. A certified public psychologist will respond.

KEYPAT consultation desk

keypat-info@ml.kanazawa-u.ac.jp

1月5日に保健管理センターwebサイトに掲載したKEYPAT立ち上げの通知

表 1. 災害後の時期別の被災地域の心理的变化

超急性期 (発災後数日)	被災の心理的衝撃で茫然自失となり、恐怖・衝動的行動・虚脱状態を呈する。また強い不安、緊張、過敏反応、不眠、拒食が生じる。
急性期 (数日から数週間)	集団で苦難を乗り越えるべくソーシャルサポートを強めようとする心理が働き、ハネムーン期と呼ばれる相互扶助の活動や至福感・多幸症的、躁的言動が生じる。
中期 (1か月～数か月)	人的物的喪失の甚大さと復興の困難さに直面し、うつ、自責感、喪失感、被害感が生じる幻滅期と呼ばれる時期。被災状況の格差に対して被遺棄感・怒りが周囲に向かうこともあれば、自分だけが生き残ったという罪悪感が生じる場合もある。
復興・再建期 (数か月以降)	全体的な災害支援は終了する中で、多くの被災者の心理は正常化するが、一部の被災者に生活のパターンの激変、経済的苦境、地域コミュニティの変化・喪失による二次的ストレスが生じる。被害全体に目が向けられ、個々の被災者は後回しにされ、問題が個別化し、深刻な心理的問題は気づかれにくくなる（缺状格差）。

「自治体の災害時精神保健医療福祉活動
マニュアル」より引用

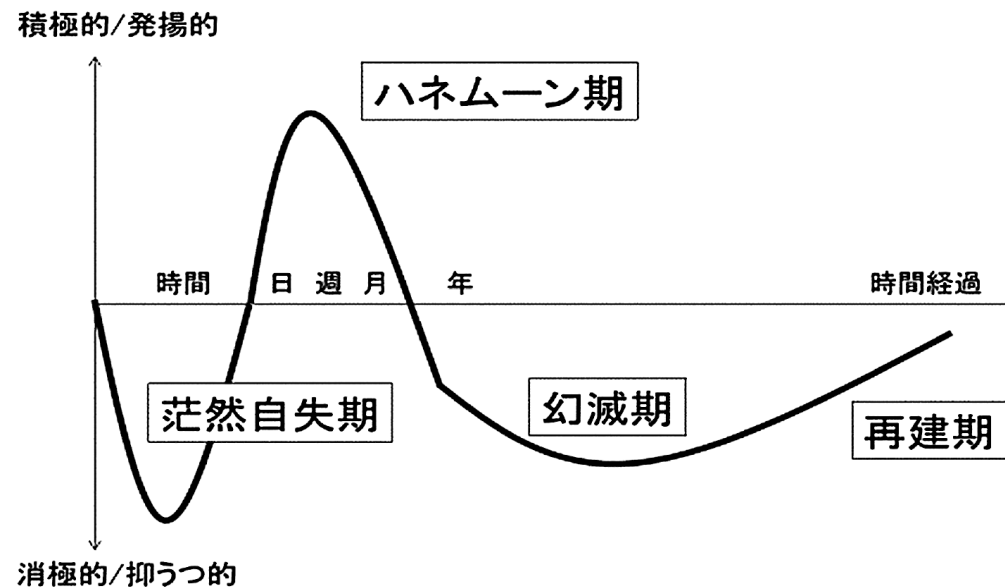


図 1. 被災者の心理の時間的経過 (外傷ストレス関連障害に関する研究会 金吉晴
「心的トラウマの理解とケア」(2006) ³⁾より改変)



精神保健・心理社会的支援（Mental Health and Psychosocial Services: MHPSS）におけるKEYPATの位置づけ

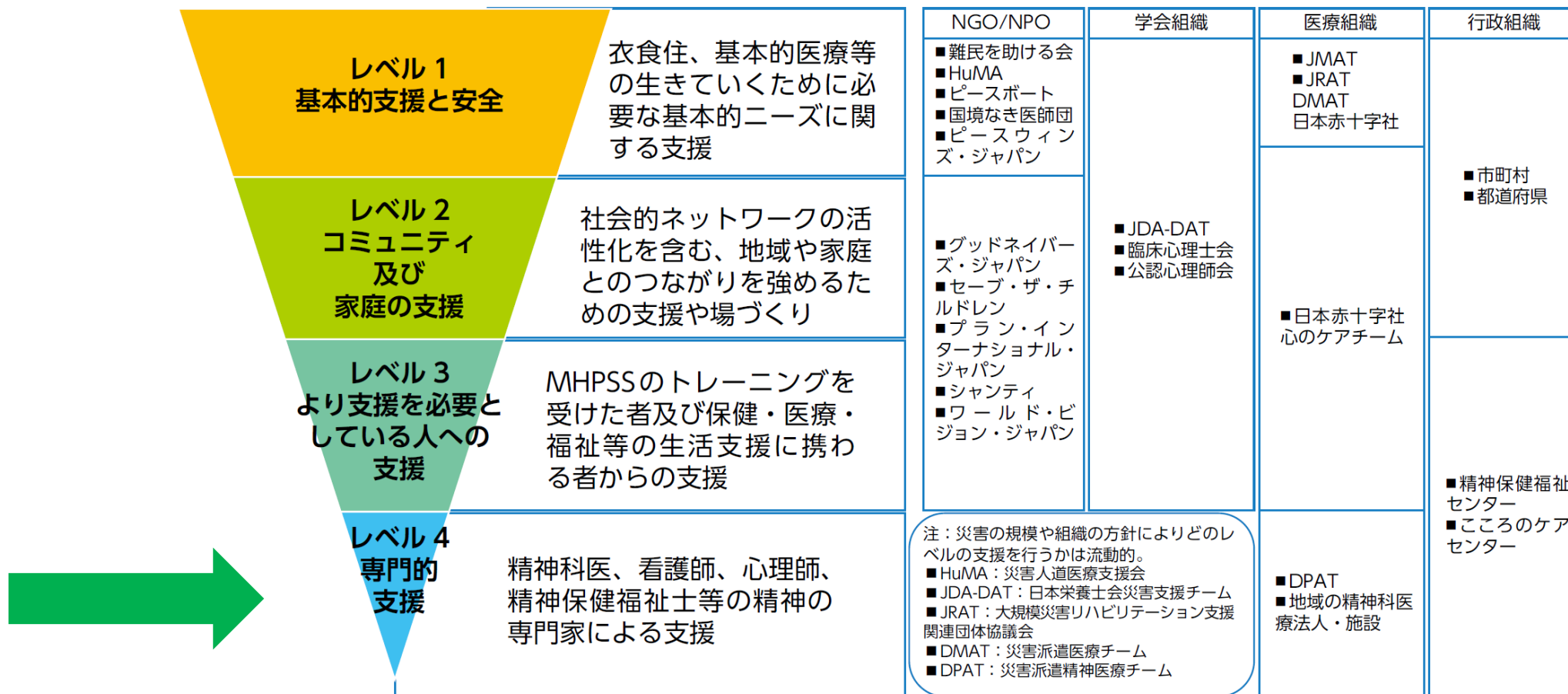


図2. つなぎマップと MHPSS の各支援レベルにおける支援団体・組織の例





ご清聴ありがとうございました。

KEYPAT